

# 地震・津波に備える

## 日頃から 7つの備え

- 1. 防災訓練**  
日頃から防災訓練に参加し、防災行動力を身に付ける。
- 2. 家庭の防災会議**  
家族で「家の中でどこが安全か、避難場所はどこにあるか、避難するとき何を持ち出すか」などを決めておく。
- 3. 住宅の耐震診断、耐震補強**  
住宅の耐震診断を実施する。
- 4. 家具などの転倒・落下防止**  
家具や食器棚の転倒防止を行い、自身が飛散しないよう扉を留め具で固定する。
- 5. 消火器などの備え**  
消火器や懐中電灯、厚手のスリッパ（カラス）によるけが防止）などを用意する。
- 6. 非常持出品の準備**  
避難場所での生活に最低限必要なものを準備する。
- 7. 家族の安否の確認方法**  
地震時に落ち合う場所や安否情報を取り次ぎしてもらえらる遠方の親戚などを決めておく。また、N-TT「災害用伝言ダイヤル1717」、携帯電話会社の「災害用伝言板」の活用方法を確認しておく。

## 地震発生時 8つの心得

- 1. 机やテーブルに身を隠す**  
揺れを感じたら、まず丈夫な机やテーブルの下に身を隠し、座布団などが身近にあれば、頭部を保護する。
- 2. 非常脱出口の確保**  
玄関などの扉を開けて非常脱出口を確保する。
- 3. 慌てて外へ飛び出さない**  
周囲の状況を確認かめ、揺れが収まるまでは慌てて外へ飛び出すことなく落ち着いて行動する。
- 4. 素早く火の始末をする**  
使用中のガス器具やストーブなどの火を素早く消し、ガス器具は元栓を閉め、電気器具は電源プラグを抜く。
- 5. 狭い路地、塀際、崖や川べりに近寄らない**  
狭い路地や塀際は、瓦などが落ちてきたり、ブロック塀などが倒れたりするので注意する。また、崖や川べりは地盤の緩みで崩れやすくなっているので注意する。
- 6. 避難するときの注意点**  
避難は徒歩で、持ち物は最小限に抑える。強い地震（震度4以上）を感じたときは、海岸から離れ、津波情報を確認したら、高台など安全な場所に避難する。
- 7. 正しい情報の入手**  
テレビ、ラジオの報道や市役所などからの情報に、絶えず注意する。
- 8. 協力し合って 応急救護と救出活動を**  
みながお互い協力し合って、応急救護をする。建物の倒壊や落下物などの下敷きになった人がいたら、協力し合って救出活動を行う。



地震とそれに伴う津波は、いつ発生するか分かりません。突然、地震発生。そんなときにまず何をしたらいいのかを知っておくことが、自身や周りの人の安全確保につながります。

問合せ 危機管理課 ☎334112

## 津波に備える

平成25年に熊本県が行った地震津波の調査によると、八代市では震度7の地震が発生し、揺れにより堤防が破壊された場合、約6500haという広範囲が津波による浸水の被害を受けるという結果になりました。

本市では、左表の12の施設と「津波災害等における緊急一時避難施設に関する協定」を結んでおり、津波に襲われた際の避難場所として「津波避難ビル」に指定しています。

お住まい近くの施設を確認しておきましょう。

## 津波避難ビル一覧

施設名	所在地
1 熊本交通運輸 鏡町倉庫	鏡町 鏡
2 JAやつしろ中央第一カントリー	昭和日進町
3 JAやつしろ 総合青果物センター・中央トマト選果場	古閑 浜町
4 介護老人保健施設とまと 本館・南館・八代病院 2 病棟	郡築 一番町
5 JAやつしろ南部トマト 選果場	植柳 下町
6 ケアハウス 偕老苑	大福寺 町
7 ホテル 大黒屋	麦島 西町
8 ゆめタウン八代	建馬 町
9 イオン八代店	沖町
10 八代グランドホテル	旭 中央通
11 リハビリ特化型デイサービスセンター 花つばき	千反 町
12 ホテルウィングインターナショナル熊本八代	旭 中央通

H27.9.1現在